

ボランティアフォローアップ講座⑥
地域の支えあい・助け合い
今求められているボランティア活動



順天堂大学准教授であり「ともに歩むふくしプランⅡ推進委員会」委員長の松山毅氏をお迎えして、地域の支えあい・助け合い 今求められているボランティア活動をテーマにこれからボランティアとしてどうしたら良いかを皆で考え実践できる機会としました。

日時：平成28年1月17日（日）13：30～15：30

会場：ミレニアムセンター佐倉 会議室3・4

参加者：V連会員25名（10団体・個人12）、V連外：講座参加者12名、
講師1名、VC1名 計：39名



1. 講話 松山 毅 氏 （抜粋）

『地域福祉と支えあい活動 ～地域を豊かにするボランティア活動～』

①支えあいとは？

「ボランティアは支える側なのでしょうか？」、固定化するものではなく、同じ地域に住む住民同士、誰もが支える側であり支えられる側になりえます。誰にも頼らず生きていく人はいません。→お互いさまの関係・相互依存です。

②ボランティアとは誰のためにしているのでしょうか？

「自分のため？相手のため？社会のため？」大多数の人は、「自分のため」と答えます。「しかし、それでだけでしょか？」相手に喜んでもらえたとか社会の役に立ちたいという（利他性）がないと続けられません。

ボランティア活動と行政の比較

共に非営利活動ですが、行政は様々な角度から検討してから実施するため柔軟性と課題を解決するために時間がかかります。ボランティアはすぐに対応できますが、資金面とマンパワーに責任と継続の不安があります。ボランティアは自治会・町内会・民生児童委員・地区社協などと違い、地域に縛られません。自分が興味・関心のあることで活動できます。ボランティア活動に参加することにより自身が評価され達成感を得られ、自分の居場所となります。対象者にとっては、家族や職員以外の支援者であり、社会とのつながりができます。社会にとっては、地域の支えあいの構築となります。個人の要望なり課題を解決するために直接行政が関わるのではなく、ボランティアやNPOが間に入りその団体間がつながること（ネットワーク）により社会が豊かになります。

③地域福祉活動計画とボランティア活動

第4次計画時にあげられた地域課題は膨大でその全てに答えようとしたため総花的でした。第5次は3本の柱（支えあい活動・災害時要援護者支援・生活困窮者支援事業）としました。

実施にあたっては、市社協・地区社協の役割がある。協議会は、本来地域にある人的資源（ボランティア・まちづくり協議会・民生児童委員・地域包括支援センター・自治会等）が集まり、ネットワークを作っていくものであり、社会的孤立を防ぎます。

行動計画では、課題解決に向けて、点から線や面へとつながりを作っていくことが求められています。ちょっとした助けがあれば、その人らしい暮らしを支え、地域の中で住み続けられます。自分たちのボランティア活動の社会的意義を再確認し、地域の中で活動している団体同士がつながり、協力しながら住みやすい暮らしやすい社会を作っていくことを意識してみてください。

2. ワークショップ「みんなで考えようボランティア活動」

<課題別に掲載。皆さんの意見の抜粋です。>

○ボランティアとは何か、何のためにボランティアしているのか

- 自分のため⇒地域のため⇒社会のため
- ボランティアとは、○待っている人がいるから、○自分も助けられたことがあるから、○生活支援サービスとして、求められている。
- 自分のためにもあるが、自分の糧にもなる。そのとおりと納得。
- 自分のできる範囲でコツコツと！
- 粗大ごみになりたくない。
- 続ける→積み上げ→相手・社会→自分の達成感
- 傾聴ボランティアとして、お年寄りを元気づけている。
- 誰のためのボランティア活動かをあらためて感じた。
- 利他性に限らない。利己性がサークル活動を難しくする。
- 障がいある方でもボランティアできる。
- 行政の窓口より、ハードルが低い存在になりたい。
- 法の執行者である行政のすき間をうめる。
- ボランティア活動の意義を初めて整理できた。
- ボランティアを実施していつも豊かな気持ちになれる。
- 誰かの役に立ちたいと思うが、それが押しつけになっていないか心配。
- ボランティアが行政と個人の緩衝帯になっていることに実感が無い。
- なぜボランティアをやっている？と問われると ??となる。
- ボランティア活動をして、相談できる人をもっと増やしたい。
- ボランティアする心を長く持ち続けるには、やる気、情熱。
- ボランティア仲間を支えられて、続いていると思う。

○現在のボランティア活動の課題は

- 若い人たちのボランティアにふれる機会が少ないように感じる。
- 20年以上、会が活動しているが、動ける人が減っている。若い人に参加して欲しい。新しい人が入ってこない。
- 「たまり場」を月2回。来る人が固定化。

○コーディネート

- サボセン・ボラセン 交流会でつなぐ
- ネットワークをどうつくるか、誰がつくるか、コーディネートは誰がやるのか。

○ボランティア活動を活発化するには

- もっとPRした方が良い。
- ボランティアの参加者が中々増えない。高齢者パワーをもっと使えるように。
- ボランティアのやれることは一杯あるということをもっと社会的にPR。
- 地域内でのボランティア活動の紹介などを定期的開催。
- 他のボランティアが何をどのように…を知ることが活動を広められる。

○つながり、支えあい

- 自治会をやめる人が多い。→どんどんおつきあいが希薄になっている。
- いっせいに入居という新しい町に住むことに始まり、町会では順に回ってくる当番の時以外は、近隣の方とも話す機会がなかった。長く住んだ割には何もわからない状況。
- 誰でもボランティアする人、される人になりうる。
- ボランティアは相互のためになるとは思わなかった。老人ホームの車いすの掃除はとても喜ばれている。
- ボランティアをされている認識を持つ。
- ボランティア活動は、支え合い活動である。自治会・町内会、地区社協、協議会などの事業 どう違うの？
- 支えることばかり考えていましたが、支えられることも考えてみた。
- 地域でのお互いさま→日常生活の中で無意識のうちに助けあっている
- 活動していて支えられていると意識していないが、笑顔が返ってくればそれが私の支えになっている？

○ネットワーク

- 行政からの要請に応える。高齢者、障がい者のため。
- 自分のボランティア活動と他の団体の活動と結ぶのは難しい？
- 活動見本市での活動紹介（花壇づくり）からネットワークができた。
- ボランティア活動と地域の連帯の必要性を感じた。
- 個人ボランティアをつなぐということに心が動きました。
- 地域社会とコラボしたボランティア。
- 地域の資源（ボランティア・NPO・社協）同士が、横のつながりを持ちたい！
- 自分の活動の社会的つながりをより強くもとう。
- やっている自分たちも豊かになれるし、効率もよい。大きな力になる。
- ネットワーク 行政とつなぐボランティアのところで施設の存在の疑問がわいた。
- ネットワークで支える重要性を知った。
- つながるといえることはどういうことか！！ どうしたらつながるのか。
- 行政と個人とのネットワークのしくみは可能か。
- 地区社協に関心を持つ。／「地区社協」って、よく知らないデス。
- 自治会、町内会など、もっと身近な活動として参加。

